

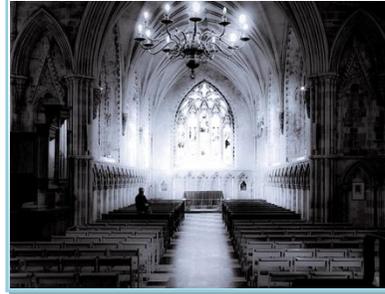
6月22日

殉教者オルバン

Albanus

(?/209頃?254頃?)

～イギリス人最初の殉教者～



セント・
オールバンズ
大聖堂

人名辞典ではアルバーヌス、またアルバンとも書かれることもあるオルバンは、イギリス人最初の殉教者である。

イギリスのウェルラミウム(のちのセント・オールバンズ)で生まれた彼はキリスト教徒ではなかった。しかしある司祭との出会いが、彼の生涯を変えていく。そのころのイギリスでは、キリスト教は迫害の対象であった。このオルバンが迫害された時期を教会博士ビード(ベータ)は 305 年頃のディオクレティアヌス帝の時代と見ているが、セプティミウス・セフェルス帝の治世である 209 年頃、あるいはデキウス帝(249 年～251 年)に起こったとする学者も多い。しかしいずれにしても、カンタベリーのオーガスチンがイギリスのケントに渡ったのは 597 年であったので、その数百年前であることは間違いない。

さて、そのころイギリスの君主は、キリスト教徒に対して強硬な迫害の命令を出していた。そんなとき、オルバンは迫害を避けて逃げて来たある司祭をかくまう。そして、昼夜問わず、その司祭と話しているうちに、突然神の恩恵を心に悟り、オルバンはキリスト教徒へと改宗する。

そんな折、君主の元には、オルバンが司祭をかくまっているという知らせが届いた。それを知った

君主は、オルバンの家に官憲を遣わす。しかし、オルバンは官憲が来る前に、司祭がその時着用していた衣服(amphibalum)をまとめて、自分が司祭のかわりに捕まった。このことから、オルバンは後にアンフィバルス(Amphibalus)とも呼ばれる。

さて、裁判官のところへオルバンが連れていかれると、裁判官はちょうど悪魔に犠牲をささげるところだった。そしてオルバンに目をやり、彼が司祭でないことに気づき、その行為について罰を受けるべきだといった。それに対しオルバンは、自らがキリスト教徒となったことを告げ、決して裁判官や君主には屈せず、喜んで斬首されることを受け入れたという。

そののち、彼が殉教した地、セント・オールバンズには記念教会が建てられる。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたはみ力と恵みによって、聖なる殉教者オルバンに苦難に勝ち、死に至るまで忠実である生涯を与えられました。どうか恵みをもってわたしたちを強め、どのような迫害にも耐え、主イエス・キリストのみ名を忠実に証することができますように、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。アーメン